

## 北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト(大津地区②)

事業実施者 : 大津漁業協同組合  
事業期間 : 平成27年5月1日～平成30年4月30日

使用船舶名 : 第十一海栄丸(網船199トン) 第三十二海栄丸(運搬船315トン)  
(大中型まき網漁業)

### (取組の内容)

- 船団の合理化 : 網船の大型化と探索船の削減により、1船団3隻体制を2隻体制に縮減する。  
: 船団のスリム化により、生産コストを削減する。
- 資源管理の推進 : 探索船の削減により漁獲量の削減を見込む。(従来漁獲量10,201トン/年  
(震災前5年平均)の10%削減9,181トン/年)
- 省コスト化 : 探索船の削減により乗組員を5名削減する。(42名→37名)  
年間燃油消費量を73Kℓ削減する。  
修繕費(2隻体制)を45百万円/年削減する。  
氷使用量を10%削減する。(5,170トン→4,653トン)
- 網船の安全性向上等 : 改革型網船の導入により十分な復原性、居住環境、作業スペースを確保する。
- 復旧復興への対応 : 大津漁港の復旧に参画するとともに、需要に応じた水揚を行い、  
従来の餌料用冷凍品から加工品の冷凍事業に脱皮を図る。  
(大津漁港への計画水揚数量510トン/年)



第十一海栄丸 網船 外観



第十一海栄丸 網船 リビング

### (事業の成果)

- 網船の操業性能の向上及び高性能作業艇の活用により、支障なく操業することが可能となり、船団縮減を実現した。
- 水揚数量(3年平均15,196トン)は、復興計画の目標値(9,181トン)を65.5%を上回り、水揚金額(3年平均1,089百万円)は48.3%上回った。償却前利益は215百万円(3年平均)で、次世代船建造が十分可能な結果を得ることができた。
- 燃油使用量(平均1,151KL/年、9.2KL/日)は計画値(1,072KL/年、8.6KL/日)をやや上回った。  
氷の3年平均使用量7,223トンは計画値4,653トンを上回ったが、水揚量1トン当たりの氷使用量(平均475kg)は計画を下回った。
- 網船の復原力の向上と居住環境の大幅な改善が図られた。
- 水揚岸壁及びそれに伴う後背地の復旧の遅れにより、大津漁港への水揚量(3年平均で417トン)は計画値(510トン/年)を18%下回った。